

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000101		
法人名	社会福祉法人 王寿會		
事業所名	グループホームあおぞら(あさひヶ丘)		
所在地	愛知県豊橋市西幸町字浜池323番地		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26番地 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成28年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『あおぞらの下、共に支え合い、寄り添いながら心地よいと思える場所を目指します』の方針の下運営を行っています。 入居者様が安心して生活が送れるように職員全員で協力し合い、個々の状態・状況にあったケアを提供できるように努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ユニット内はとても広々とした空間となっており、室内でも歩行の機会が多く作れる。紅葉狩り、菖蒲園、梅や桜見など季節の移ろいを感じられる外出機会を多く設けている。日々の生活の中では、買物や喫茶店でのモーニング、外食、散歩など積極的に地域に出かけている。また、運営推進会議を活かし、地域の情報収集を行い交流を深めるよう努めており、地域と合同で防災訓練を行い、防災協定を結ぶなど災害時の協力体制も構築されている。医師との良好な関係性が築かれている事により、24時間相談でき、緊急時の往診も柔軟に対応してもらうことにより、家族からの「自宅で看取りたい」との希望に応える事ができた。開所から5年が経ち、運営推進会議に行事を合わせて開催するなど新しい取り組みをはじめており、今後更なる飛躍が期待できるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に事業所の理念に沿った介護を実践するために、会議・個人面談で理念の確認・共有を行い実践に繋げている。	玄関に入って正面に理念が掲げている。理念が日々のケアに活かされるよう、グループホーム独自の理念に沿った方針を定め、研修等で確認を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	昨年同様に地域の盆踊りや秋のお祭りに参加をしています。今年は近所の保育園児を中心にハロウィンイベントを開催して地域の交流を図っています。	運営推進会議により、地域の取り組み、行事などの情報を得て、盆踊り、お祭り、防災訓練など積極的に交流の機会を作っている。地域行事への参加時には、専用の駐車場を用意してもらうなど良い関係性が築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の見学受け入れ、中学生の福祉体験学習の積極的な受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの活動屋入居者様の様子を報告しています。	会議では、自治会長、地域包括支援センター職員、利用者、家族の参加が得られており、併設の特養との合同開催で行われている。施設の現状報告を行い、直接意見や要望を聞き取り、運営に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長を中心に連絡を取り合っています。	地域包括支援センターの協力を得て、認知症に対する理解を深めるため、認知症サポーター養成講座を開催した。介護相談員の定期的な訪問や、役所窓口を訪問し、日頃から相談しやすい関係づくりの構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット玄関やテラスは基本的に施錠はおこなっていない。夜間は各家庭と同様に玄関・テラスは戸締りをする。	昼間は基本的に施錠を行っておらず、玄関、テラスも自由に出入りが可能な環境となっている。そのため、利用者の居所確認など職員間で見守りを強化し対応している。身体拘束に関しての勉強会を行い、スピーチロックなどは、現場での指導で早期改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体・精神的な状態観察に努め、異常が見られる場合は、すぐに報告を行う体制を整えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護パンフレットは常に職員が読める場所に設置してある。成年後見制度を利用されている方は1名おみえになる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に事前説明を行い、さらに入居当日に契約書・重要事項説明書を基に細かく説明を行い、疑問や不安がないように配慮をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やカンファレンスの際にできるだけご意見やご要望をお伺いしてその意見を会議で検討を行って反映している。	利用者からは、表情や普段の会話から要望を聞き出すようにしている。要望はカンファレンスで話し合い、迅速な対応を行っている。家族からは面会時に積極的に要望を聞き出すようにしている。体操、散歩などプランに盛り込み、要望に沿ったケアを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談・ユニット会議・リーダー会議で意見や提案を聞く機会を設けている。	ユニット会議、特養合同のリーダー会議を意見を聞く場としている。管理者は日頃から、聞きやすい、話し合いやすい職員間の雰囲気づくりに心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価、個人面談を行い環境整備に反映をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他部署への研修や施設外研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との意見交換会を行う機会が年に数回ある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前アンケートでご家族より情報を頂き、サービス導入時に不安をできるだけ軽減出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明時、入居時、カンファレンス時に不安や要望を伺うようにして、良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	24Hシートを活用して、入居者様とご家族様がその時に、必要としている支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある共に支え合い、寄り添いながら心地より環境を作れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主治医以外の受診や理髪等の外出には御家族様に協力を依頼しており、共に支える環境をできる限り築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様がよく行っていた喫茶店に出掛けたりして、馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。	利用者が入居前に通っていた喫茶店との関係が途切れないように入居後も継続して出かけている。併設特養との交流、地域へ出かけていく事で、新しい馴染みの関係づくりにも積極的に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本は見守りを行い、認知症状により良好な関係を築くのが難しい時には職員が関わりを支援するように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入居時同様に丁寧な対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を配置して本人様の意向や希望を把握するように努めている。困難な場合には、ご家族様と一緒に意向を伺ったり、話しやすい環境作りに努めている。	懐かしい写真やDVDを見ながらのコミュニケーションで、昔の事や生活ぶりを思い出し、意向や希望の把握に繋いでいる。12月から始めた公文式学習療法の題材からも気持ちを汲み取る糸口が得られ、言葉や思いを記録に残し、情報を職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前アンケートで生活歴、生活環境を伺い生活リズム・好み・環境をできる限り自宅の環境に近付けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24Hシートに本人様の生活の様子を把握、また日誌、生活記録でも毎日の状態把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議、カンファレンス、各担当職員を意見交換を行い介護計画書に反映をさせて作成している。	担当職員が「モニタリング24時間シート」を基に状態や変化を把握し、毎月家族に内容を送付している。会議やカンファレンス時に職員間で意見交換し、家族の要望や気持ちも理解の上、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、日誌に日々の活動や様子を記録して、情報の共有とモニタリング表、介護計画書に反映をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ、訪問歯科等の利用。本人様の状況に合わせて主治医も往診に来て頂けるようになっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物に出掛けたり喫茶店に外出をしています。近隣の保育園への行事見学や散歩に出掛ける等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医の説明を御家族様へ行い主治医をかかりつけ医にするか協力医にするか選択して頂いている。	入居時にかかりつけ医を選択できる旨を説明しているが、現在は全員ホームの協力医の支援を受けている。看護職と連携しながら、家庭にいた時と同じようにと往診ではなく職員と外来受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日誌、生活記録、朝礼で情報共有を行い日常の関わりの中で体調や身体的な変化を看護職に相談し適切な受診や看護に繋がるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に伺い状況確認を行っている。ご家族様、病院とこまめに連絡を行い退院時はスムーズに対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の施設でできる事、看取りとなった場合のできる事を必ず説明する。御家族様の重度化した場合の考え方や看取りについての考え方は入居時に必ずアンケートで確認を行っている。毎年4月にはアンケートの取り直しを行っている。	入居時に急変時対応と重度化、看取りに関するアンケートを家族に実施し、毎年意思を確認している。家族の意向が多様化しており、初めて自宅で看取りたいとの申し出に応じた。職員とは、都度想定される状況への対応や心構えを看護師を交えて共有し、支援に反映させている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に感染症の対応訓練と応急手当・急変時の対応訓練・勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施して、防災意識の向上に努めている。地元自治会と防災協定を締結して災害時には相互に協力を行う体制を整えている。	2階の特養と一緒に年6回、想定を替えて訓練を実施している。施設を地域の避難所として開放する旨の協定を自治会と結んでいる。3日分の食料、水を備蓄しており、コンロ型自家発電やライト等の準備もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	入居者様の性格、生活歴、その時の気分を回りながら誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応を行うように努めています。	利用者の人格を尊重し、そっと周囲に気づかれないよう、さりげない言葉がけや対応を心がけている。名前は一人ひとりの意向に添った呼び方を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での言葉や行動を記録に残して、職員間で共有して思いや希望に添えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活リズムやその時の気分、感情を出来る限り最優先して最優先し、本人様の体調に合わせて過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に馴染みの化粧品を持って来て頂き、その人らしいお洒落ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の体調や気分を図りながら出来る限り食事の準備や片づけを一緒に行って頂くように支援している。	利用者との買物、食べたい物のメニューの取り入れ、料理の下ごしらえの手伝いと様々な関わりのもと、手作りの食事を楽しんでいる。誕生日には本人の好みを取り入れ、外食する場合もある。秋の焼き芋、年末の餅つき、テラスでのバーベキューと季節感も大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量チェックを行い、食事量や水分量が少ない方には、間食や補助食品を使用して確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの見守りが必要な方には職員が付き添って口腔ケアを行っている。入れ歯洗浄は職員が確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が自立・継続できるように誘導方法や時間を配慮している。排泄状況に合わせて布パンツ、リハビリパンツ、尿取りパットを使用している。	トイレでの排泄を継続できるよう、各々のパターンや動きを見て誘導や声掛けを行っている。夜間のみポータブルトイレを使用する人もあり、排泄状況に合わせて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は入居者様の希望を伺いながら排便を促す食材を取り入れるように配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	回数・曜日は決めてないが、二日に1回は入浴して頂いている。体調により入浴できない時には、体拭や足浴などを提供している。	1日おき、週3回入浴している。無理強いせず、時間をおいたり、声掛けの工夫で対応しており、体調不良時には清拭や着替えで支援している。季節のゆず湯やしょうぶ湯、時には入浴剤を入れてゆったりとした時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により日中もお部屋で休息ができるに配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服薬内容はファイルですぐに確認できるようになっている。内服薬の変更がある時には変更内容の申し送りを行う、また看護師に聞き症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、好み、性格を考慮して家事を中心に役割りを持って頂き、貼り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事や外食は積極的に同行して出掛けている。個別での買い物やお墓参りなどにも出掛けている。	気候や体調を考慮した上で、施設周辺を散歩したり、買物や喫茶店に出かけている。家族と墓参りに出かけ、外食して帰ってくる人もいる。3月、4月は梅見や花見、6月は加茂菖蒲園など季節の花々を楽しんだり、正月には初詣でに出かけた人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の理解の範囲内で入居者様に現金を自己管理して頂き、買物時に使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には随時連絡を行うように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの掲示物は入居者様と一緒に作成した季節を感じられる物を掲示している。トイレは入居者様が分かりやすいように看板を付ける等の工夫をしている。	季節に合った掲示や行事の写真等があり、広々とした空間は日当たりが良く、2ユニット間の扉は自由に開閉でき、利用者の行き来も可能である。各種雑誌や本、植物があり、利用者はパズル、塗り絵、編物とそれぞれの時間を過ごしている。事業所内は掃除も行き届き、訪問時、床掃除をする利用者の姿が見かけられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、入居者様同士がコミュニケーションや作業をされたりと共用の空間になるように配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が自宅で使用していた家具を持ってきて頂き、できる限り自宅にいた時と環境の変化が小さくなるように配慮して居心地良く過ごせる環境なるように工夫をしている。	カーテン、エアコン、ベッドは備え付けで、使い慣れたコタツ、タンス、テレビ、鏡台等が持ち込まれ、自宅にいた時のように、心穏やかに過ごせる環境作りがされている。加湿に濡れタオルを利用して	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室には表札を掛け、トイレにも分かり易く看板を掛け、「わかること」を活かして安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。		